

もしもに備える 水や食料の備蓄と部屋の安全点検

飲料水と食料の備えを

各家庭で最低3日間。できれば1週間分の飲料水と食料を備蓄しておきましょう。

水は1人当たり、1日2～3リットルが必要です。食料は、缶詰やカップ麺なども良いですが、カセットコンロがあれば、電気やガスが使用できない場合でも、冷蔵庫などに保存している食材で簡単な調理をすることができます。



●ローリングストック

備蓄している飲料水は、賞味期限が近付いたら、コーヒーやお茶などに使いましょう。

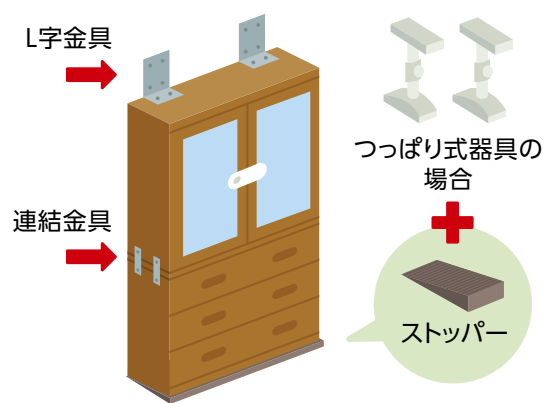
日常の中で「少し多めに買って、食べたら買い足す」というローリングストックを意識すると、無理なく備蓄を続けられます。

寝室など、家の中にも注意を

就寝中に強い揺れがあれば、とっさの対応はできません。寝室に背の高い家具は置かないようにしましょう。

寝室以外でも、転倒防止対策や重いものは、できるだけ下に配置する工夫が大切です。

通電火災を防止するため、避難する際はブレーカーを落とし、ガス栓を閉めましょう。



知ること、防災への第一歩

●菊池市総合防災マップ ※全戸配布

ハザードマップをはじめ、避難場所の所在や防災に役立つ情報などを掲載しています。ホームページからも見ることができます。



●熊本地震や防災の特集

過去の広報紙にも、防災に関することや平成28年熊本地震について特集しています。ぜひご覧ください。令和8年4月号



市では、平成28年熊本地震以降、飲料水や保存ごはん、パンなどの備蓄品を整備するとともに、自治体や企業との協定締結により、災害時の協力体制を築いてきました。

しかし、大規模災害が発生した場合は、自分や家族の身を自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」がなければ、災害を乗り越えることはできません。防災の視点からも、日頃から近所の人へのあいさつや声掛けを心掛け、コミュニケーションを図っていきましょう。

公費解体制度

令和8年熊本地震で、個人が所有する家屋や中小企業が所有する事業所などで、全壊、大規模半壊、中規模半壊または半壊の被害を受けた家屋などについて、所有者の申請に基づき、市が所有者に代わって、解体・撤去を行います。

対象

罹災証明書または罹災証明書(非住家)で、半壊以上の判定を受けた建物など

※制度の詳細や申請方法などは、環境課までお問い合わせください。ホームページ(下記二次元コード)にも情報を掲載しています

申し込み・問い合わせ先

環境課 ☎0968(25)1116



これまでの教訓を生かして 今一度、地震への備えを

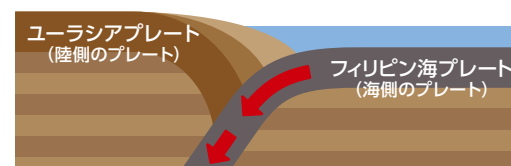
令和8年熊本地震は、日奈久断層帯を震源とし、宇城市と八代郡氷川町で震度7を観測しました。菊池市は震度5弱～5強を観測。本市では、平成28年熊本地震レベルの被害はありませんでしたが、市内の一部地域で約1週間、上水道の濁りが発生しました。大地震がひとたび発生すれば、私たちの生活に大きな影響を与えます。改めて、災害への備えを見直してみませんか。

【問い合わせ先】防災交通課 ☎0968(25)7203

地球上で発生する地震の約1割は、 日本や日本の周辺で発生

日本で発生する地震のタイプは、大きく分けて「海溝型地震」と「活断層による地震」です。

海溝型地震



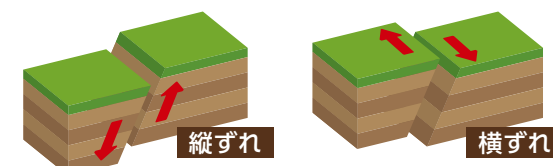
南海トラフは、日本列島が位置するユーラシアプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが年間数センチの割合で沈み込んでいる場所です。

南海トラフでは、おおむね100～150年の間隔で大規模地震が発生し、直近では、昭和21(1946)年に、昭和南海地震が発生しています。すでに80年近くが経過していて、次の大地震発生の可能性が高まっています。

九州沖が震源となった場合、本市でも震度5程度の揺れが想定される上、太平洋側を中心に、激しい揺れや津波による広域的な被害が予想されます。

支援部隊は太平洋側の大規模な被災地での活動が中心になると考えられます。また、生産や物流の停滞も懸念され、私たちの生活にも大きな影響が及ぶことが心配されます。

活断層による地震



熊本地震(平成28年・令和8年)は、布田川断層帯と日奈久断層帯を震源として発生しました。

政府(地震調査研究推進本部)の資料によると、九州には、地震の規模や発生確率が公表されている活断層は約30あり、本市の周辺にも地震が発生すれば、震度5以上の揺れをもたらす恐れがある断層もあります。

地震はいつ発生してもおかしくありません。日頃から、地震に備えておく必要があります。



本市に影響を及ぼす恐れのある地震	予想される地震の規模 (マグニチュード・M)	今後30年間の発生確率
布田川断層帯による地震	M7.0程度	ほぼ0%
日奈久断層帯による地震	M7.5程度	ほぼ0～6%
万年山～崩平山断層帯による地震	M7.3程度	0.004%以下
南海トラフで発生する地震	M8～9クラス	60～90%程度以上

※政府(地震調査研究推進本部)の資料を基に作成(算定基準日:令和8年1月1日)